

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 株式会社 愛和学園

1 事業の趣旨・目的

福岡市およびその近郊では、「生活者として」暮らす外国人児童が増える一方で、日本語教育支援が十分に行き届いていない現状がある。本業務は、外国人児童が孤立しないようにつながりをつくることが第一の目的である。また、この業務を通して地域における日本語教育支援をより充実させられるように学校関係者と連携をとることが第二の目的である。さらに、図書館という知的資材を活用し、文法・語彙の暗記ではない日本語教育、つまり表現力の育成を目指した講座を開くことが第三の目的である。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2010年 4月17日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	委託事業の目的・募集方法の確認	募集方法の決定 (県教育委員会の後援を取得⇒市町村⇒各小学校へ通知)
2010年 5月8日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	案内文の検討	案内文は、英・中・韓の翻訳をつけ、学校の先生宛・保護者宛てを分けてつくることで決定する。
2010年 6月12日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	6月の講座内容の打ち合わせ	6月の活動は、自己紹介と夏をテーマにする。夏のことばを取り入れる。必要な教材を決める。
2010年 7月10日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	7月の講座内容の打ち合わせ	7月の活動は、心の宝箱を開くをテーマに、自分の大切にしていることを表現する。必要な教材を決める。

2010年 7月31日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	8月の講座内容の打ち合わせ	8月の活動は, 夏の思い出をテーマに, 自分の体験したことを表現する。必要な教材を決める。
2010年 9月11日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	9月の講座内容の打ち合わせ	9月の活動は, 敬老の日と秋をテーマに決め, 粘土で秋を表現し, それに詩をそえる。必要な教材を決定。
2010年 10月3日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	10月の講座内容の打ち合わせ	10月の活動は, 秋を感じ表現すること決める。初めて屋外活動を入れる。必要な教材を決める。
2010年 11月13日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	11月の講座内容の打ち合わせ	11月は, 読書の秋をテーマに, 詩を書き応募することに決定。また, しおりを作る。必要な教材を決定。
2010年 12月12日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	12月の講座内容の打ち合わせ	12月は, お正月・クリスマスをテーマに, 今年1年のありがとう気持ちを届ける。必要な教材を決める。
2011年 1月8日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	1月の講座内容の打ち合わせ	1月は, バレンタインをテーマに, 大切な人にメッセージをそえた贈り物をする。必要な教材を決める。
2011年 2月12日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	2月の講座内容の打ち合わせ	2月は, 次年度のカレンダーづくりを行う。自分の大切な日を記したり, 写真を貼る。必要な教材を決定。
2011年 3月12日	福岡県立図書館	深江新太郎, 安福由里子, 関根幸代	3月の講座内容の打ち合わせ	3月は, マンガづくりを行う。ストーリーを考え, 4コママンガをつくる。必要な教材を決定。

【写真】 2011年1月8日 福岡県立 子ども図書館 研究室にて



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 : 「図書館につどい 絵本とまなぶ 日本語の部屋」
- ② 開催場所: 福岡県立子ども図書館(福岡市東区箱崎 1-41-12)
- ③ 学習目標: 日本の歳時記をテーマに, 造形活動を通して, 自分の思いをことばで伝える
- ④ 使用した教材・リソース: 講座で使った絵本の一部は以下である
藤原一枝・はたこうしろう 作『まほうの夏』
小池昌代 編/村上康成 画『かんじることば レモン』
長谷川義史『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』
五味太郎『あきはいろいろ』
内田麟太郎『十二支のおはなし』
- ⑤ 受講者の募集方法
 - I 福岡県教育委員会の後援取得
 - II 福岡市及び福岡市近郊の教育委員会から小学校へ伝達
 - III 募集のチラシ(保護者宛て)には、3ヶ国語の翻訳をつける
募集チラシの一部は、以下の通り

福岡市 各小学校長 様

平成 22 年度文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
(後援) 福岡県教育委員会

『図書館につどい 絵本とまなぶ 日本語の部屋』

受講生 募集について(通知)

世界規模の人口移動の結果、日本そして福岡でも「生活者として」暮らす外国人が増えています。しかし一方で、日本語教育支援は十分に対応できておらず、学校や地域で孤立する外国人は社会問題となっています。このたび、文化庁委託事業（後援 福岡県教育委員会）として行う日本語教育事業は、上記のような社会背景の下、福岡市及びその近郊に暮らす日本語教育支援が必要な外国人児童を対象に行われます。

記

日時：平成 22 年 6 月～平成 23 年 3 月の毎月第 3 土曜日（全 10 回）

9 時 30 分～12 時 30 分

場所：福岡県立 子ども図書館 （福岡市東区箱崎 1-41-12）

受講料：無料

対象：小学校 1～6 年の日本語教育支援が必要な外国人児童

定員：15 名（原則的に先着順）

参加者の日本語能力基準：ひらがな学習終了程度（書けなくても可）、
簡単な指示が聞ける（講座は日本語で行う）

申し込み方法：学校より下記に FAX(別紙 3)で申し込み

（株）愛和外語学院 深江 新太郎宛 FAX：092-632-8540

申し込み締め切り：2010 年 6 月 11 日（金）

結果の伝達：2010 年 6 月 14 日（月）に申し込み者全員（申し込み学校全て）に伝達

《別紙資料》 別紙 1 講座趣旨，概要（学校長，教頭，外国人児童の担任様）

別紙 2 講座案内【日本語】（保護者様）

別紙 2－1～2－3 講座案内【英語・中国語・韓国語】（保護者様）

別紙 3 申し込み用紙（学校長，教頭，外国人児童の担任様）

別添 子どもたちへの講座案内（子どもたちにお渡しください）

⑥ 受講者の総数 5 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 中国 3 人，韓国 2 人)

⑦ 開催時間数(回数) 30 時間 (全 10 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	2010. 6. 19 9:30～12:30	3時間	4人	中国・中国語（2人） 韓国・韓国語（2人）	教授者4人	自己紹介と夏のことば
②	2010. 7. 17 9:30～12:30	3時間	5人	中国・中国語（3人） 韓国・韓国語（2人）	教授者4人	ことばの宝さがし
③	2010. 8. 21 9:30～12:30	3時間	4人	中国・中国語（2人） 韓国・韓国語（2人）	教授者4人	夏の思い出を伝える
④	2010. 9. 18 9:30～12:30	3時間	5人	中国・中国語（3人） 韓国・韓国語（2人）	教授者4人	秋を粘土で表現し、詩をそえる
⑤	2010. 10. 16 9:30～12:30	3時間	5人	中国・中国語（3人） 韓国・韓国語（2人）	教授者4人	秋を感じ、見つけ、表現する
⑥	2010. 11. 20 9:30～12:30	3時間	4人	中国・中国語（2人） 韓国・韓国語（2人）	教授者4人	読書の秋をテーマに活動
⑦	2010. 12. 18 9:30～12:30	3時間	5人	中国・中国語（3人） 韓国・韓国語（2人）	教授者4人	1年のありがとうを伝える
⑧	2011. 1. 15 9:30～12:30	3時間	4人	中国・中国語（2人） 韓国・韓国語（2人）	教授者4人	節分・バレンタインがテーマ
⑨	2011. 2. 12 9:30～12:30	3時間	5人	中国・中国語（3人） 韓国・韓国語（2人）	教授者4人	新学期カレンダーをつくる
⑩	2011. 3. 12 9:30～12:30	3時間	5人	中国・中国語（3人） 韓国・韓国語（2人）	教授者4人	マンガをつくる

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

【2010年10月16日の講座内容（講座の一例）】

- 1 秋を感じる絵本をみなで読む（五味太郎『あきはいろいろ』小学館）
- 2 秋を探しに行く

- ・ 宮崎宮に秋の素材（木の葉や木の実）を探しに行く
- ・ 木の葉に今の思いを日本語で表現する

- 3 秋を表現する

- ・ 2で集めた素材を使って「ひとりひとりの秋」を表現する
- ・ できた作品は写真にとり、来年の秋のカレンダーにする

- 4 みんなで日本語すごろく

- ・ すごろくの指示を子どもたちが考え、からだをつかって表現する



（ある子どもの作品）

【活動の様子（様子の一例）】



2010年10月16日「あき」を表現！



2010年9月18日 絵本に夢中。



2010年8月21日 はなびの音は？



2010年7月17日 ひっかき絵です。

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況・学習者の習得状況

当初立てた3つの目標に対する評価を以下に記す。

I 外国人児童間のつながりをつくる

今回は、参加者が多くなく、外国人児童間のつながりをつくれたとは言い難い。講座内容、初めての試みであるための認知度の低さ、時間帯等が原因であると考えられる。次年度は、内容をブラッシュアップさせ、時間帯も幅広くとり、講座を行う。

II 地域の日本語教育支援が充実できるよう学校関係者と連携をとる

福岡県篠栗町篠栗小学校が小学4年生のウクライナ人児童を受け入れるにあたり、今回の事業の教授者で日本語教育カリキュラムを作成した。

III 表現力の育成

子どもたちの表現力については、評価の方法を確立していないため、ここで提示することができない。次年度は、保護者・児童・教授者が事業の成果を確認できる仕組みをつくる。

② 日本語教室設置運営の効果, 成果

一番大きな成果は、地域の図書館が日本語教育の場となり、異文化交流の場となることを先駆的に示しえたことである。会場となった福岡県立子ども図書館から、地域における外国人児童の現状について問われ、必要な図書等があれば購入が行え、地域の異文化交流に対し前向きに取り組んでもらえるようになった。

③ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

まず事業を実施するにあたり、福岡県立子ども図書館の司書の方々の協力を得た。さらに、福岡県教育委員会の後援を取得し、地域の教育員会から、各小学校へ伝達することができたことも、重要な連携であった。また、今回の事業の一環として、地域の日本語教育相談に応じた。福岡県篠栗町篠栗小学校が小学４年生のウクライナ人児童を受け入れるにあたり、今回の事業の教授者で日本語教育カリキュラムを作成した。

④ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

今後の課題として、次の３点がある。次年度は、この３点を改善し事業を行う。

- ・図書館の持つ“場の力”を最大限引き出す

今年度は、図書資料を教授者があらかじめ選定して講座を行った。しかしそれでは自ら探し、調べる機会を提供する図書館の“場の力”を生かすことができなかった。次年度は、子どもたちが図書資料を自ら探し、調べる活動を講座の基礎とする。

- ・子どもたちの活動を細分化し、明示化する

子どもたちの主体性を重んじた活動を行う場合、そこに含まれたプロセスを細分化し、明示化する必要がある。今年度は、そのプロセスの細分化・明示化が曖昧であったため、一つ一つの活動の意義を把握することが困難であった。次年度は、全体の活動に含まれた一つ一つのプロセスを可視化することから始める。

- ・保護者が子どもたちの活動を参観する機会を設ける

今年度は、保護者が子どもたちの活動を参観する機会がなかった。しかし次年度は、計１０回の活動の中で、５回目と１０回目に保護者参観の機会を設け、子どもたちの事業期間内の成長を直に確認できるようにする。